

特集 〈日本の幼稚園教育百三十周年を迎えて〉

手引書 『幼稚園』^{をさなごのその} の原書と

その入手経路について

大戸 美也子

東京女子師範学校附属幼稚園の開園に先立つ、一八七六(明治九)年一月、『幼稚園』巻上が出版された。ずばり『幼稚園』と表記したわが国最初の幼稚園教育の手引書である。翌年三月には巻中が、さらに一年後の明治十一年六月には巻下が刊行され、四人の訳者が二年余の歳月をかけて翻訳を完了させ

ている。本書の内容は、幼稚園の創設者F. フレーベルが開発した教育玩具である恩物と手技の取り扱方を記したいわゆるマニュアルブックであるが、幼稚園教育をスタートさせる直前の出版であったことを考えるなら、倉橋惣三らが本書を「幼稚園史にとって最も意義深い参考保育書の第一である」(倉

橋・新庄、昭和九）と位置づけるのも納得できることである。これだけ重要な保育書であったから、これまで原書の調べから始まって、翻訳者の検討（小林、一九九七）そして原書と照合しての内容の吟味（岡田、一九九七）等々、様々な検討が行われてきた。

しかしながら、原著者のロンゲ夫妻について、また明治初期における教育専門書の入手経路については、まだ十分に説明されていないところから、本論において若干の補足を試みてみたい。

一 原著者 ロンゲ夫妻について

『幼稚園』の原著者は、Yohannes Ronge (1813～75) と Bertha Ronge (1818～1863) 夫妻である。夫ヨハネスは、シレジア生まれの神父で、「十九世紀のルター」と称されたドイツ・カトリック教会の改革運動のリーダーであり、フランクフルト国民会議の議員でもあった (Ronge, 1846)。一方、妻ベータはハ

ンブルク市の富裕な実業家マイヤー家の出身で、既に六人の子どもをもつ既婚者ながらハンブルクの婦人同盟 (Ladies' Unions) の熱心な会員として、貧しい家庭の子どもたちの保護や少女の教育にあたりていた。

当時のベータは、新教との交流を訴え、見合い結婚に反対を唱え、女性の教育や自己決定の推進を謳う革新的なドイツ・カトリックに心惹かれ、また新興の幼稚園教育がこうした民主的な考えをもつ人間形成に役立つという期待を高めていた (Reed, 2003)。そこでハンブルクの婦人同盟は、一八四九年から五〇年の冬季に最晩年のフレーベルをハンブルクに招き、半年間の幼稚園講習会を開講することになった。受講生二十二名の中には、ヨハネスもおり「幼稚園の基本的な考えは、われわれの教育の考え方と同じ」 (Ronge, 1852) という思いを強めていた。同志的な思考をもつ二人の関係は深まり、ベータは遂

に離婚を決意し、夫トラウンに年長の子ども三人を託し、一八五〇年の暮れ、幼い子ども三人を連れてヨハネスと共にイギリスへ旅立つのであった。

翌年、二人の間に子どもができたのを機にドイツからの革新的な考えをもつ移民の多い彼らの居住地で幼稚園を始めた。これが、イギリスにおける最初の幼稚園である。一八五三年には市中に近いタピストックに移転し七歳以上の子どもの教育をも含めた幼稚園教育を展開した。こうした彼らの努力も、当初知る人は少なかったが、一八五四年の教育博覧会への参加をきっかけに彼らの教育活動はイギリス教育界に広く知られ受け入れられていくこととなった。

この博覧会は、一八五一年のロンドン大博覧会の剰余金を基金に技芸協会創立百周年記念事業として、「教育への深い関心を喚起するために、内外の様々な教育機関で採用している多様な教材・教具を

できるだけ完全な形で収集し展示する目的で開催」された(大戸、一九八七)。具体的には展示と講演会で構成され、ロンゲ夫妻はその二つに参加したのである。ベータ夫人の「Infant Training (幼児教育)」についての講演は非常に好評を博して、その講演をもとに翌年出版されたのが『幼稚園』の原書である。

書名は次のように長々しい。A Practical Guide of The English Kindergarten (Children's Garden), for the use of Mothers, Governesses, and Infant Teachers: being an Exposition of Froebel's System of Infant Training. London: J. S. Holdson, 1855



この本は、その後出版社を換えながらも一八九〇年代まで版を重ねてシュタイガー社を介して世界に広まり、遙か日本にまで到来するのである。

二 図書取次業者

E. シュタイガーについて

小学校教育さえ普及していない、従って就学前の教育など思いもよらぬ時代に、その教育情報を世界に広めるためには、強力な情報発信者が必要である。幼稚園教育の普及発展のために、情報を発信続けたのがドイツ生まれのアメリカの図書出版・教材製造・販売業者の E. シュタイガー (1832-1917) である。彼は、十六歳から八十五歳で亡くなるまでの七十年間、図書の収集と目録作り、そして出版と販売に捧げた人物である (Arndt, 1979)。十六歳から七年間をドイツの書店で徒弟奉公し、二十三歳の時ニューヨークの書店の助手に転出し、三十二歳

(1864) でドイツ語専門の書店主として独立した。彼の名前を高めたのは、ウィーン万国博覧会 (1872) にアメリカ合衆国全土 (三十七州と十一準州) で発行されている雑誌の総目録を作成し、現物と共に出展した功によりメリット賞を受賞してからである。

一八七〇年代に入り、アメリカ合衆国の各地に幼稚園が設立され始めると、シュタイガー社は急速に幼稚園教育へのかかわりを深め、関係図書や恩物のカタログ作りと宣伝広告を活発化させていく。特に、一八七六年にフライデルフィアで開かれた万国博覧会では、国内外の幼稚園関係の専門書二百余冊を網羅した図書目録 (八頁) と著名な書物の一部を抜粋した小冊子 (Tract)、そして恩物と手技の絵入りの商品目録の作成と無料配布、幼稚園関係の教材などの展示、更にはパビリオン内に幼稚園舎を付設して公開保育を実施するなど、幼稚園教育の普及と恩物の世界的販路を広げる絶好の機会とした (大

戸、一九九六)。

シユタイガー社が、幼稚園をはじめとする教育関係の専門書籍販売業者の最大手として急成長していくその時期は、わが国にあつては明治維新の直後に当たり「追いつけ、追い越せ」とばかりにアメリカへも多くの知識人が訪れ、外交をはじめとする各種の折衝をしたり、留学生を送つて多方面の情報収集をしていた時期である。このような時代背景を考えると、情報の強力な送り手としてのシユタイガー社と、情報を求めてやまない日本人とは、必然的に接点をもつ状況にあつたといえよう。その接点にあつてシユタイガー氏と交流していたことを裏付けているのは、森有礼である。

三 外国文献の取次ぎ者

森有礼と清水卯三郎について

森有礼は、一八六五年から六八年まで、動乱の幕

末をイギリスとアメリカで留学し、一八七〇(明治三)年、少弁務使(のち代理公使)としてワシントンに勤務。一八七二(明治五)年、明治新政府が文明視察のために送つた岩倉使節団一行をワシントンで迎え、彼らの世話役にあつた。一八七三年に帰国するまで、「日本における宗教の自由」「日本における教育」などの著書を英文で発表したり、全米教育協会(NEA)で講演するなど、彼の活動はアメリカの教育界の関心を集めていた。

森は、またワシントン駐留中、幼稚園に関心をもち、ワシントン近郊の幼稚園教員 Miss Hooper に日本での幼稚園の開設を依頼したが、これを解消したことを伝える書簡も明らかにされており、一八七三年以前に幼稚園の存在を知つていたことになる(大戸、一九八二)。更には、一八七三年三月の帰国直前までのシユタイガー社との交信を立証する(二月二十八日 阿久根資料、一九八二・三月十四日 森

有礼書簡集、一九七二）書簡も残されており、森がシユタイガー社の豊富なカタログを入手する重要な窓口になりえたことがわかる。

彼はまた、帰国するや外国生活の経験のある者や洋学の知識豊かな仲間を集め、「我国ノ教育ヲ進メシユタイガー社ノ徒会同シテ其ノ手段ヲ商議スルニ在リ。又同志集会シテ知ヲ広メ識ヲ明ニスルニアリ」

を目的とする明六社を結成。定期的に会合をもっては教育や学術・文化について意見交換を行ったのであるから、シユタイガー社からの新情報や図書目録は森を通して当然社員に紹介されたといえよう。

社員には後に東京女子師範学校の撰理に就任する中村正直、また洋書輸入業の瑞穂屋を営む清水卯三郎などがいたことを考えると、シユタイガー社の幼稚園に関するカタログは、東京女子師範学校長中村正直を通して附属幼稚園の関係者に伝えられ、瑞穂屋を介して商品を購入する経路が明治七年当時、す

でに確立していたとみることができる。初代附属幼稚園長の関信三はその著『幼稚園創立法』（一八七八・明治十一年）の中でシユタイガー社の紹介と同事発行の図書目録（一八七七年版）に挙がっている二十七冊を「参観ノ便ニ供ス」と紹介しているが、このカタログには、勿論『幼稚園』の原書は含まれていなかった。

これまで示してきた事実を辿れば、遠くイギリスで出版されたロンゲ夫妻の原書がアメリカを経由し、外国事情に明るい森有礼や中村正直などの啓蒙的な教育界のリーダーを介して関係者にもたらされ、わが国最初の幼稚園の手引書の役割を果たしたということが炙り出される。遙かに遠い道のりを経て、国際的な連携の中で、わが国の幼稚園は出発してきたのである。

（お茶の水女子大学）